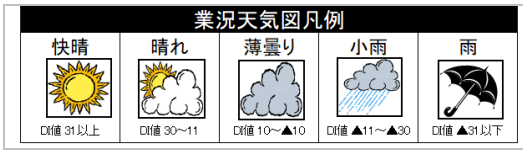
今期業況天気図

期間：2019年4月～6月（売上・採算・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「小雨」。推移をみると、 2019 年4月～6月期の総合業況DIは▲21 と、前期▲15 から6ポイントの悪化。全産業では 2 四半期前の「薄曇り」から1四半期に「小雨」に悪化し、1四半期前に「薄曇り」であった製造業、建設業が急速に悪化し、全業種が「小雨」になった。飲食業・サービス業は小幅ではあるものの改善。小売業・卸売業はマイナスの状態から改善が見られない。

消費増税による駆け込み需要の増加も限定的で、米中貿易摩擦の激化による取引先の生産調整や年金2000万円問題による個人消費意欲の減退を訴える声が上がる。製造業が大きくマイナスに落ち込み、特に中国の景気減退の影響を受ける半導体関係や精密部品などの業種が厳しい。飲食業・サービス業を除き業況の悪化が続く。

	全業種 総　合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 15	▲ 14	▲ 8	▲ 25	▲ 14
採算	▲ 21	▲ 21	▲ 10	▲ 33	▲ 21
仕入単価	▲ 42	▲ 48	▲ 49	▲ 51	▲ 31
販売単価	▲ 5	▲ 4	▲ 8	0	▲ 5
従業員	24	17	33	15	27
資金繰り	▲ 16	▲ 16	▲ 10	▲ 23	▲ 15
今期業況 （総合判断）	▲ 21	▲ 24	▲ 13	▲ 30	▲ 19
今期業況 天気図					



<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値（DI値）を用いる。

参考）今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 2018.7月～ 9月期					
2四半期前 2018.10月～ 12月期					
1四半期前 2019.1月～ 3月期					
今期 2019.4月～ 6月期					

次期見通し業況天気図

2019年7月～9月（売上・採算・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較）

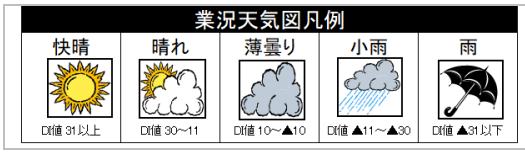
全産業の天気図は「小雨」。

産業別にみると、製造業、建設業、飲食業・サービス業では「小雨」が続き、小売業・卸売業は「雨」と、 全業種で悲観的な見通し。

今期と次期を産業別に比較すると、建設業（今期・次期）は更なる悪化が見込まれる。製造業（今期・次期）と飲食・サービス業（今期・次期）は今期と同じく低位で横ばいの現状維持。小売業・卸売業（今期・次期）は景況が好転せず「雨」に落ち込む見込みである。

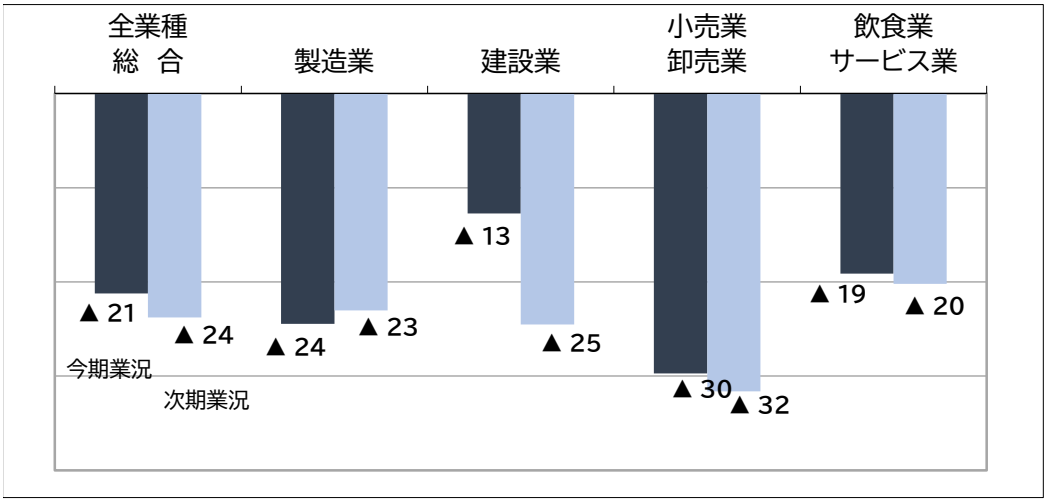
全ての業種が 20 以上のマイナスに落ち込み、厳しい状況が続くことが懸念される。

	全業種 総 合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 20	▲ 21	▲ 19	▲ 30	▲ 15
採算	▲ 24	▲ 24	▲ 20	▲ 33	▲ 22
仕入単価	▲ 33	▲ 33	▲ 39	▲ 40	▲ 28
販売単価	▲ 5	▲ 3	▲ 7	0	▲ 8
従業員	23	17	34	13	26
資金繰り	▲ 17	▲ 15	▲ 14	▲ 22	▲ 18
次期業況 （総合判断）	▲ 24	▲ 23	▲ 25	▲ 32	▲ 20
次期業況 天気図					



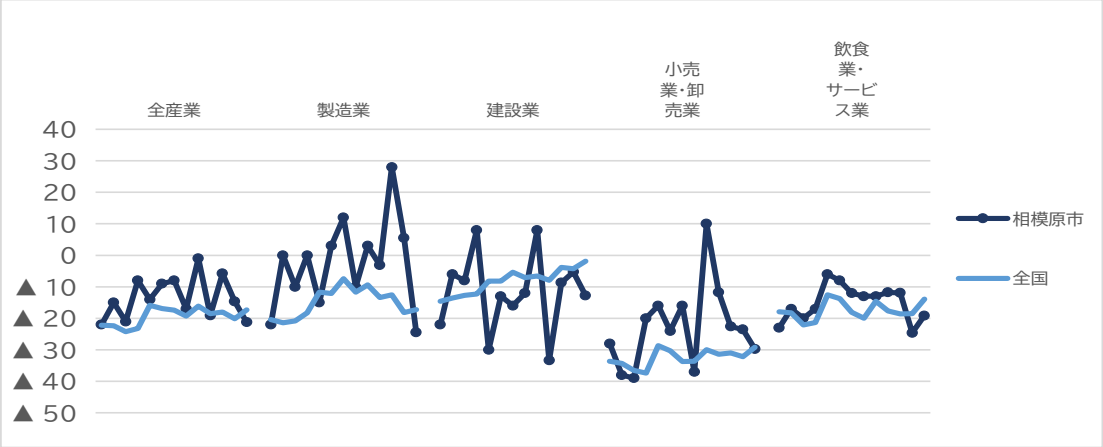
<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値（DI値）を用いる。

参考） 今期と次期の業況DI



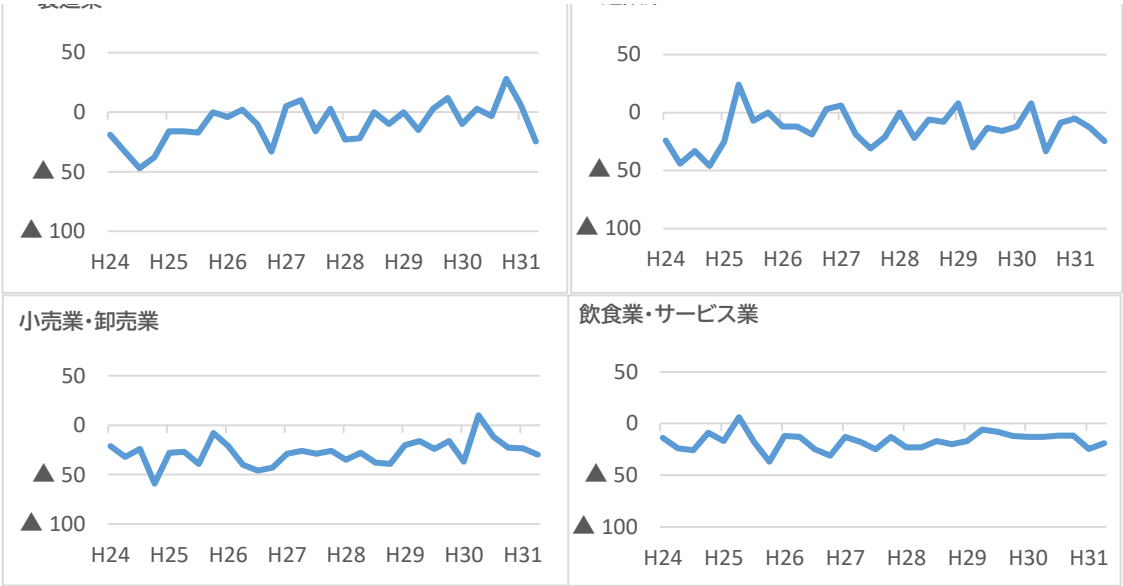
業況DI（前年同期比）の推移

全産業の業況DIは、前期▲15 から▲21（前期差6ポイント減）と、悪化傾向は続いている。
産業別にみると、飲食業・サービス業は▲19（前期差 6 ポイント増）と前期の急激な悪化から改善が進んだものの、建設業は▲13（前期差 8 ポイント減）、小売業・卸売業は▲30（前期差 6 ポイント減）とやや悪化が進んだ。製造業は▲24（前期差 30 ポイント減）と大幅に悪化し、業種によって景況感の違いがあった。
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、前期まで全国よりも景況が良かった製造業と小売・卸売業の景況悪化により、すべての産業で全国値を下回ることになった。コメントからは、好調な声が上がっているのはインバウンド需要に対応するホテル業界や民間相手の建設業、消費税率変更の需要があるソフトウェアなど一部の業種に限られ、それら以外のほぼ全業種が厳しい状況を訴えている。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況（自社）」を質問項目としている

参考）業況DI（前年同期比）の長期推移（業種別）



業況DI（特徴的なトピックス）

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

・会社設立以来、最悪の状態です。受注額は前年比で 30%ダウン。【電子部品（水晶デバイス、MEMS 等）用リケットの製造販売】

・好景気感は全く感じられません。メインの客先からの受注がだいぶ減りました。【精密機械部品加工】

・米中貿易問題の影響。大企業からの生産調整から中止による受注減。【光学ガラス加工】

・人材不足である中で人件費が高騰し、収益を圧迫している。【カット野菜】

【建設業】

・仕事量の地域差（都心、横浜は多く、相模原、県央は少ない）【電気設備工事】

・受注は増加にありますが、好景気感はありません（単価の据え置きが要因かも）。今後の問題は人員不足に更に働き方改革の対応だと思います。【給排水、衛生設備工事、多種施設保全工事】

・消費税の増税による駆け込み需要はあるが、そのあとが心配。【住宅サッシ、ビルサッシ、ガラス工事、エクステリア工事】

・元請は過去最高の利益を出しているのにもかかわらず、単価が上がらず、仕事量はこなしきれないくらいあるため、下請けからの脱却、元請工事比率をアップする。【家屋解体業、廃棄物処理業】

【小売業・卸売業】

・最低賃金の上昇はするも個人消費に反映しているとは思えない。中小企業にとって賃金上昇と売り上げ不振等の板挟みで経営は悪化するばかり。不況感しか感じない。【新聞、雑誌販売（戸別配達）】

・相模原は一歩も二歩も遅れている。集客できる目玉がない。【視力の測定、眼鏡、コンタクト注文販売】

・年金 2,000 万不足の問題から消費が少し低調になったのではないか。【生鮮食品卸売】

・働き方改革及び消費税率 10%に引き上げ等先行き不明【エアーコンプレッサー販売、修理】

【飲食業・サービス業】

・介護職不足。募集しても来ない。70 代とかはたまにくるが、正直採用は難しい。国は処遇改善をというが、法人への収入は減っており、職員の給与を上げるのは難しい。また、扶養範囲でのパート希望者の稼働日数が減り、新規入職なしではどうにもならない。【介護保険利用者（高齢者通所介護）】

・個人消費は、かなり低迷していると思われるが、会社での利用が増えているように思う。格差が広がっているように感じる。消費税が上がるとますます厳しい状況になると予測できる。【日本料理、そば、ワイン、日本酒】

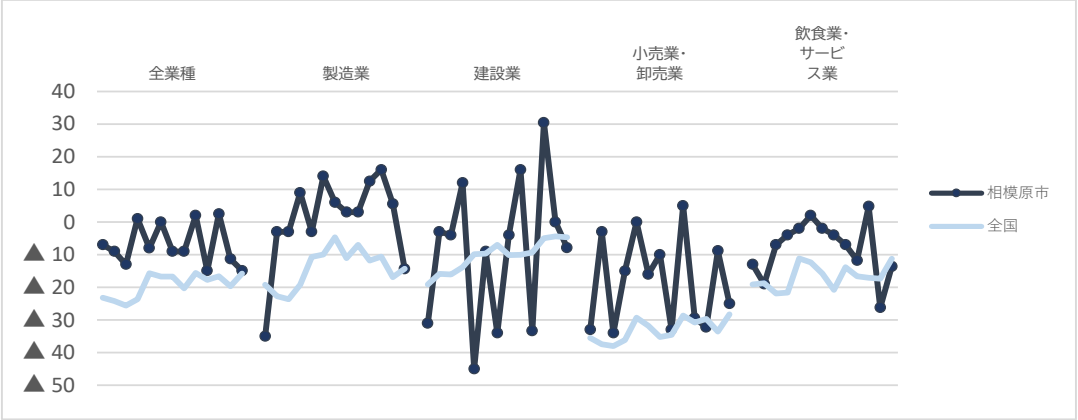
・荷主の生産が順調で売り上げが伸びております。人材も十分に確保できています。ただ、いつまで続くかは不安があります。倉庫賃料がすごく上昇しており、なかなか見つかりません。【一般貨物自動車運送業、倉庫業】

・働き方改革が施工され、社員の仕事量を減らさざるを得なくなったため、社員数を減らしてアルバイトの雇用増加を望んでおります。雇用状況が過剰というのは社員のみでアルバイトは不足している状態にあります。【テニススクール運営】

売上DI(前年同期比)の推移

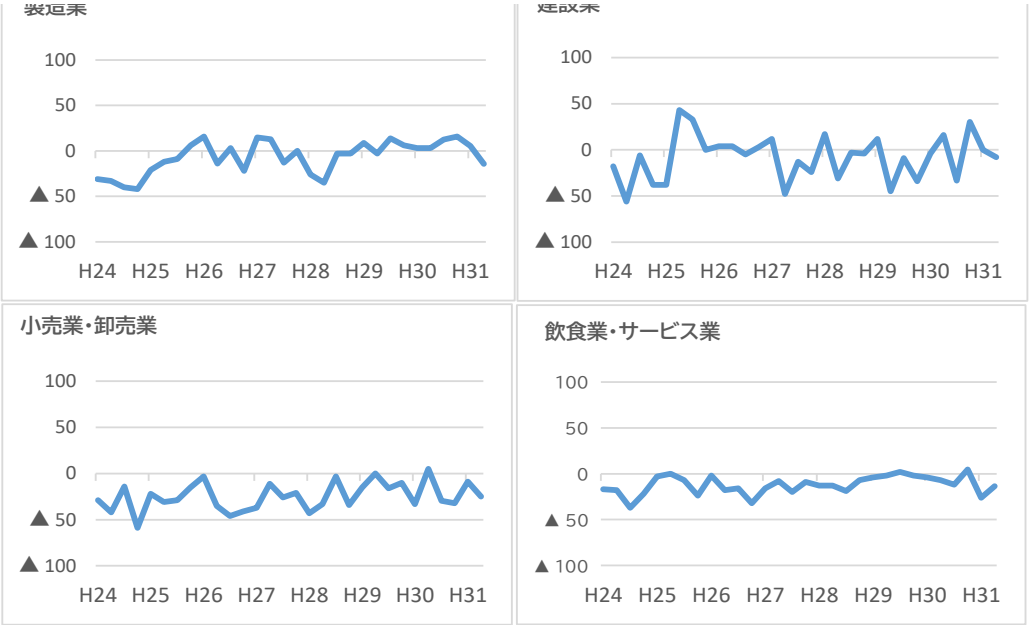
全産業の売上DIは、前期▲11 から▲15(前期差 4 ポイント減)と前期に続いて減少した。
産業別にみると、小売業・卸売業で▲25(前期差 16 ポイント減)と前期からの悪化が続いているほか、製造業で▲14(前期差 20 ポイント減)、建設業は▲8(前期差 8 ポイント減)がマイナスに転じた。製造業では受注・売上の減少を訴える声が多い。一方、飲食サービス業では▲14(前期差 12 ポイント増)と前期の急激な落ち込みからの改善が見られる。
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、建設業、飲食業・サービス業が全国値を下回っている。

(2016 年 4-6 月期～2019 年 4-6 月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI (前年同期比)の長期推移(業種別)



採算DI（前年同期比）の推移

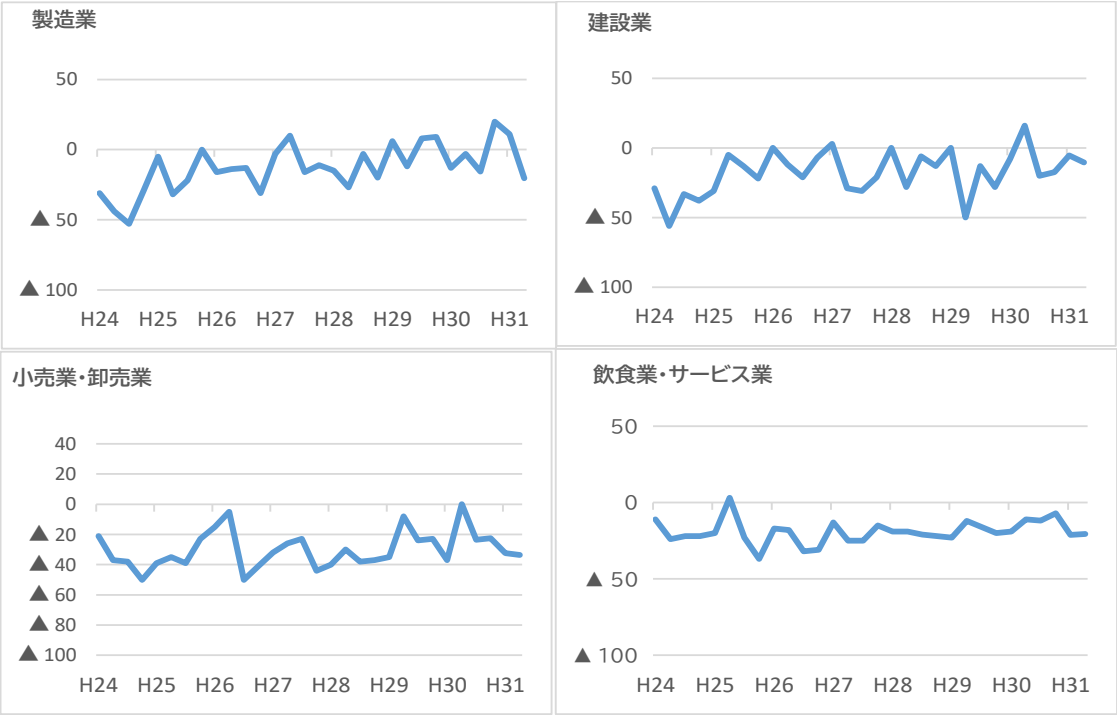
全産業の採算DIは、前期▲14 から▲21（前期差 7 ポイント減）と前期に続いて減少した。

産業別にみると、製造業が▲11（前期差 32 ポイント減）と急激に悪化しマイナスに転じ、建設業は▲10（前期差 5 ポイント減）と前期に続いて悪化が進んだ。一方、小売業・卸売業は▲33（前期差 1 ポイント減）、飲食業・サービス業は▲21（前期差±0 ポイント）と横ばいを示し、景況の悪化は底を打ったよう見える。製造業・建設業では、売上の減少とともに原材料費の値上がりが収益を圧迫しており、小売業・卸売業や飲食業・サービス業では最低賃金の上昇も採算悪化の原因となっている。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、全業種にわたって全国値を下回っている。

※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

参考） 採算DI （前年同期比）の長期推移（業種別）

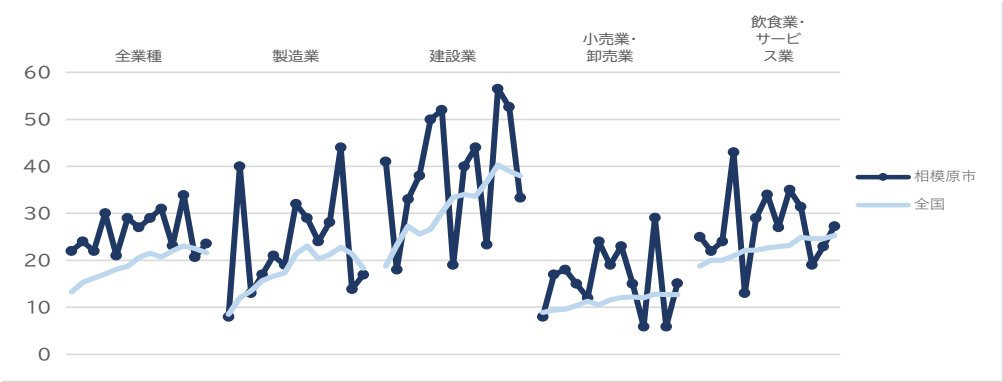


従業員DI(前年同期比)の推移

全産業の従業員DIは、前期 21 から 24(前期差 3 ポイント増)に増加した。

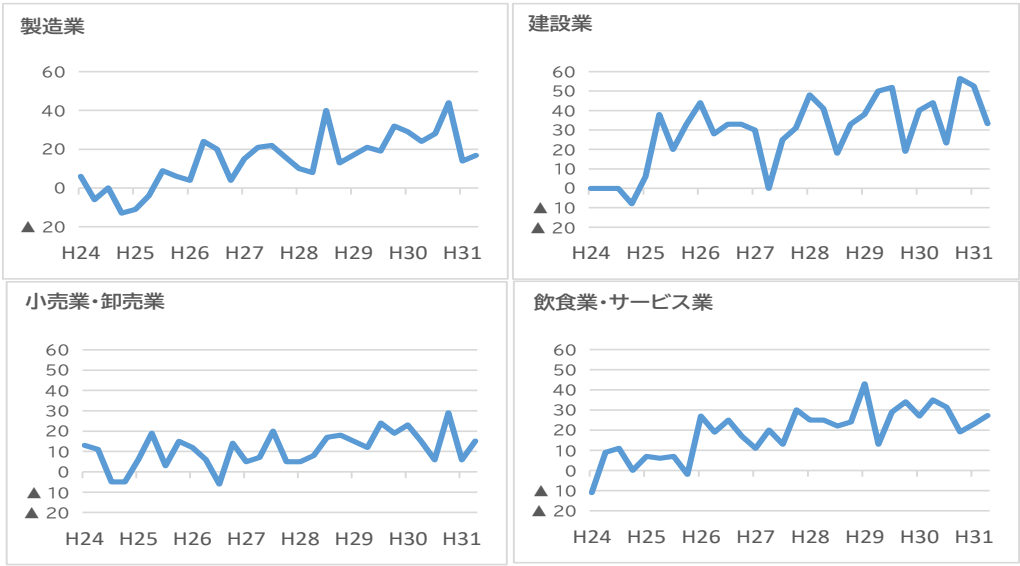
産業別にみると、製造業で 17(前期差 3 ポイント増)、飲食業・サービス業は 27(前期差 4 ポイント増)はほぼ変わらず人手不足感は落ち着いた状態が続いたのに対し、小売業・卸売業は 15(前期差 9 ポイント増)と人手不足が進んでいる。建設業では 33(前期差 20 ポイント減)と、人手不足感が緩和されており、売上の減少とともに慢性的な人手不足が一服したと考えられる。小売業・卸売業や飲食業・サービス業では、働き方改革による労働時間の削減が一層人手不足感に拍車をかけている。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、小売業・卸売業、飲食業・サービス業が全国値を上回っている。人手不足は人件費の上昇も招いており、業況の悪化にも影響を与えている。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査
※従業員DIについて、当所では「DI＝不足―過剰、中小企業庁は「過剰―不足」で算出。
比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考） 従業員DI （前年同期比)の長期推移(業種別）

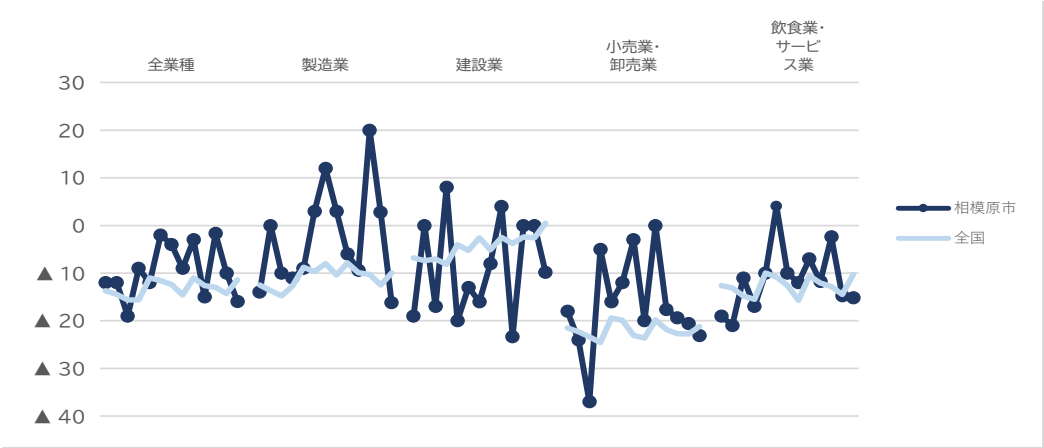


資金繰りDI（前年同期比）の推移

全産業の資金繰りDIは、前期▲10 から▲16（前期差 6 ポイント減）と、前期に低下が続いている。

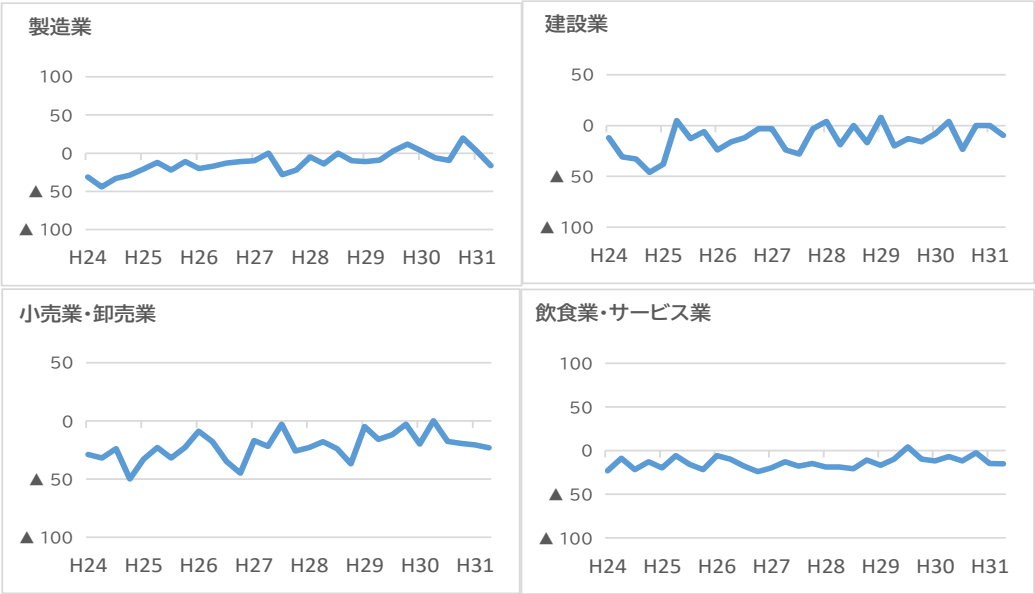
産業別にみると、製造業で▲16（前期差 19 ポイント減）、建設業は▲10（前期差 10 ポイント減）と急激に悪化した一方で、小売業・卸売業で▲23（前期差 2 ポイント減）、飲食業・サービス業は▲15（前期差±0 ポイント）とほぼ横ばいを示し低位で安定している。2期前まで売上が好調であった製造業、建設業は売上の低下が止まらず資金繰りに懸念が出ていると考えられる。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、全国では全業種で資金繰りが改善しているが、当市では全業種にわたって資金繰りが悪化し、全国値を下回る。特に建設業と製造業で全国よりも景況が悪く、資金繰りの悪化を招いている。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考）資金繰りDI（前年同期比）の長期推移（業種別）



集計表（景気観測調査）

			今期（2019.4～2019.6）				次期見通し（2019.7～2019.8）			
			売上・増加 採算、資金、総合：好転	不変	売上・減少 採算、資金、総合：悪化	合計／DI値	売上・増加 採算、資金、総合：好転	不変	売上・減少 採算、資金、総合：悪化	合計／DI値
製造業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	76	86	116	278	59	103	116	278
		構成比	27	31	42	▲ 14	21	37	42	▲ 21
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	57	107	114	278	38	135	105	278
		構成比	21	38	41	▲ 21	14	49	38	▲ 24
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	8	128	142	278	9	168	101	278
		構成比	3	46	51	▲ 48	3	60	36	▲ 33
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	28	211	39	278	28	213	37	278
		構成比	10	76	14	▲ 4	10	77	13	▲ 3
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	64	197	17	278	57	211	10	278
		構成比	23	71	6	17	21	76	4	17
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	24	185	69	278	17	201	60	278
		構成比	9	67	25	▲ 16	6	72	22	▲ 15
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	40	130	108	278	35	144	99	278
		構成比	14	47	39	▲ 24	13	52	36	▲ 23
建設業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	56	76	72	204	38	89	77	204
		構成比	27	37	35	▲ 8	19	44	38	▲ 19
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	38	107	59	204	24	115	65	204
		構成比	19	52	29	▲ 10	12	56	32	▲ 20
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	1	103	100	204	1	122	81	204
		構成比	0	50	49	▲ 49	0	60	40	▲ 39
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	17	154	33	204	17	156	31	204
		構成比	8	75	16	▲ 8	8	76	15	▲ 7
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	74	124	6	204	73	127	4	204
		構成比	36	61	3	33	36	62	2	34
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	19	146	39	204	14	148	42	204
		構成比	9	72	19	▲ 10	7	73	21	▲ 14
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	30	118	56	204	17	120	67	204
		構成比	15	58	27	▲ 13	8	59	33	▲ 25
小売業・卸売業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	49	61	102	212	36	76	100	212
		構成比	23	29	48	▲ 25	17	36	47	▲ 30
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	27	87	98	212	20	103	89	212
		構成比	13	41	46	▲ 33	9	49	42	▲ 33
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	7	90	115	212	13	101	98	212
		構成比	3	42	54	▲ 51	6	48	46	▲ 40
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	47	117	48	212	46	121	45	212
		構成比	22	55	23	0	22	57	21	0
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	40	164	8	212	35	169	8	212
		構成比	19	77	4	15	17	80	4	13
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	14	135	63	212	11	144	57	212
		構成比	7	64	30	▲ 23	5	68	27	▲ 22
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	26	97	89	212	16	113	83	212
		構成比	12	46	42	▲ 30	8	53	39	▲ 32
飲食業・サービス業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	113	167	175	455	93	201	161	455
		構成比	25	37	38	▲ 14	20	44	35	▲ 15
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	70	221	164	455	59	239	157	455
		構成比	15	49	36	▲ 21	13	53	35	▲ 22
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	13	286	156	455	8	312	135	455
		構成比	3	63	34	▲ 31	2	69	30	▲ 28
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	53	324	78	455	46	327	82	455
		構成比	12	71	17	▲ 5	10	72	18	▲ 8
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	138	303	14	455	128	316	11	455
		構成比	30	67	3	27	28	69	2	26
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	37	312	106	455	27	318	110	455
		構成比	8	69	23	▲ 15	6	70	24	▲ 18
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	66	236	153	455	54	255	146	455
		構成比	15	52	34	▲ 19	12	56	32	▲ 20
全業種総合	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	294	390	465	1149	226	469	454	1149
		構成比	26	34	40	▲ 15	20	41	40	▲ 20
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	192	522	435	1149	141	592	416	1149
		構成比	17	45	38	▲ 21	12	52	36	▲ 24
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	29	607	513	1149	31	703	415	1149
		構成比	3	53	45	▲ 42	3	61	36	▲ 33
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	145	806	198	1149	137	817	195	1149
		構成比	13	70	17	▲ 5	12	71	17	▲ 5
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	316	788	45	1149	293	823	33	1149
		構成比	28	69	4	24	26	72	3	23
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	94	778	277	1149	69	811	269	1149
		構成比	8	68	24	▲ 16	6	71	23	▲ 17
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	162	581	406	1149	122	632	395	1149
		構成比	14	51	35	▲ 21	11	55	34	▲ 24

集計表（トピックス）

製造業
2019 年 5 月以降の受注減は予想外。【工業用銘板（シール、ラベル、シルク印刷）】
2020年４月から受注減。最低賃金上昇によるコスト増。労働時間の制限による販売機会の喪失。（過大な抑制）【半導体加工機および測定機、航空・衛星向自動機】
2 月から従業員を募集しているが、採用に結び付く応募が全くない。40 万円ほどかけたものの、採用ゼロ。中堅の人材が雇用市場から消えたようにも思える。現在雇用している従業員を大事にする必要性が高まった。【FRP 造形物（特殊美術造形）】
3 月末より好況。今期はこの時期としては最高売上。【畳製造】
NC 化になり機械操作の数値に頼りすぎてしまって汎用性に乏しくなってしまったようで、単品物をすぐにこなせる者がいなくなってきた。【金属切削加工業】
一部に停滞感があるものの、中期的には堅調に推移することを期待しています。【機械、金型製造】
売上の減少【金属製品の塗装業】
大手会社の下請け会社からの仕事を受けているが、材料は当社の仕入れのため、材料代が値上りすると利益がほとんどでない状態です。【木製パレット製造、鉄製品溶接製造】
大手ほど材料費のアップを認めてもらえない。【段ボール紙器一式製造販売、その他梱包資材販売】
海外売の減少【空気圧バルグ等製造・販売】
海外の景気に影響を受けすぎてしまうこと。海外の動向が分かりにくく、先を読むのが難しいと感じている。【建設機械部品の製造】
会社設立以来、最悪の状態です。受注額は前年比で 30%ダウン。【電子部品（水晶デバイス、MEMS 等）用リケットの製造販売】
開発費の削減【工業用製品開発、試作】
価格の下落、案件の減少【情報通信関係金属部品等製造】
学校卒業アルバムの印刷関係のため、少子化、価格競争で業績維持が大変です。【印刷】
上期は好景気気配だったが、下期は感じない。来季の不安あり。【産業機器の設計製造販売】
環境の変化【工作機械部品加工】
客先の要望（在庫保有の押付、見積りロット数量の無視、従来の発注量減少、短納期、コストダウン）による収益低下【上水道継手、自動車部品、産業機械継手】
急激な受注減少。営業活動により多少の仕事は確保できるが、短納期が集中。働き方改革の影響で残業させられない。結果、受注できないものもあり。事業縮小を検討。【液晶、半導体、工作機械関係の板金、筐体等の製造】
求人難【食品製造業】
求人の雇用状況ですが、以前は 30 代の求人希望者が来ていたが、今期求人は 40～50 代の希望者しか来なくなった。【畳、襖、障子製作、張替え】
求人をしているが、全く反応がない。「職人の集団」的会社なので、「設備投資」＝「人材育成」なので、人が来ないことは重大問題。【工業製品の塗装】
近年の中で特に悪い（売り上げ減スピード）【工業系部品等】
国の会社に対するしばりが大きくて、製造会社としてはやりにくい。【制御盤製作、工事】
グループ子会社でパート募集しても集まらないので、社会的には好景気に感じる【電気、電子機器】
景気悪化（7月がピーク）【機械加工】
景気悪化による既存顧客へのライバル会社の増加が多く、単価が下がりだしている。【板金業】
景気が良くなっている実感はない。新規案件が少なく、あっても進展しない。【電子回路基板設計、製造、販売】
景気が悪いため、設備投資をしない企業が多い。【半導体装置盤の製造、ケーブル加工より、エレベーター内の電機関係】
景気感不況【発泡スチロール加工】
景気に関して受注数も変動があり、景気がいいとは思わない。【精密機械設計、製作】
景気の低迷【精密機械金属加工業】
景気悪い。景気の不透明感や補助金目当ての買い控えが多い。【食品加工機械製造販売】
原材料費、輸送費、人件費の高騰が顕著と思われるため、受注数は増加しているものの、採算ベースが不確定な状況。また、技能職の雇用不足を感じる。【軟化ウレタンフォーム加工およびウレタンチップフォーム製造】
現時点までは好景気（業種による。半導体関連は全く駄目。）先行きは消費税の影響により不透明。【精密板金加工全般、測定機器、半導体装置、電源供給装置等の板金】
好景気感は全く感じられません。メインの客先からの受注がだいぶ減りました。【精密機械部品加工】
好不況が月により大きく振れ、安定していない【電子部品製造販売】
個人のお客様は安全で丈夫な熊本産畳表を高値でも選ぶ方が増加。リフォーム会社からは仕事が激減。安値価格にて対応できず。【畳製作】

雇用は問題ありませんが、アメリカと中国の貿易摩擦が景気に影響している。【一般産業用機械部品の製造、設計、組立。自動車部品の製造。】
今期は業態に特段の影響はないが、従業員不足は恒久的な課題。昨今の就労希望者は製造業等の業種は嫌い、避ける傾向が強く、日本の 10 年後の製造業は疲弊し、中小の大半は淘汰されると思料。【自動車足回り部品加工】
最低賃金の毎年の上昇について、神奈川県と東京都はほとんど変わらない。都道府県単位ではなく、事業規模で決めてほしい。【弁当、惣菜】
採用が困難になっている。【ワイヤーハーネスの受注生産】
採用難【ロボット。自立移動ロボットの試作開発】
材料費の上昇と物流の不安。設備の老朽化【ボルト、ねじ製造業】
先が分からない。【板金加工】
先の見通しがわからない【研削研磨表面処理】
先行きが全く予想、予測できない。受注が過去最低。仕事の来電、メール減。資金底つき。取引先に聞いても予測できずに返事なし。返済条件変更。【開発支援、試作品製造委託】
先行きの不透明感がものすごくある。景気が上がるイメージがない。【産業用ロボット、電気制御(PLC)設計、制御盤設計、製作】
先行きの見通しが去年より悪い【粉体塗装】
昨年秋から落ちた注文がまだ戻らない【プラスチック金型の設計及び製作】
昨年に比較して公共予算認可が遅い。【真空、化学、宇宙等の関係機器】
次期(9月以降)の受注が悪化している。【電気機械製造】
仕事を受注しても売り上げがあがらない。【OA 機器試作、プラスチック加工】
時短等は売り上げ減少になる。中小企業は廃業しかないのか。【印刷関係】
社会貢献による企業発展と社会課題共存のための方向性やバランスが重要と考えている。【人工大理石加工製造業】
若年従業員雇用が厳しい【鋼製型枠設計製造】
従業員が高齢化しているため、バックアップを早めにしないといけない【トラック部品製造】
従業員の高齢化と売上の低迷で雇用確保が難しい。【真空装置の製造、販売、メンテナンス】
従業員の不足【産業用途向けネットワーク通信機器の開発、製造】
受注が少なくなりました。【金属加工】
受注残減少【機械加工(軸受)】
受注状況の低下によりじわじわと景気の加工が感じられる。【機械部品加工】
受注の減少【鋼材調達、製缶業、プラント関係】
受注の減少【精密製品の設計製作】
受注の減少【精密部品加工】
受注の減少(全体的に仕事量が減少している)【真空装置部品加工、半導体部品加工】
受注の減少、偏りがあり、安定しない。【金属焼付塗装】
受注の減少。従業員の若返り。【ステンレス金属加工、精密加工】
受注の量、取引先を増やしたい。【製缶板金(ベース、カバー、フレーム等の製作)】
受発注の減少【トラック、バス、架装特装】
消費が減少【化粧品】
消費税 2%の引き上げは小さいけれど抵抗があります。特に経理処理に時間のかかるものは会社にとっては負担となり改善してほしいです。【省力機械製造販売】
消費税アップに伴う顧客の動向【商業・サービス業・工業等に関する印刷物のデザイン制作】
消費税増税への不安感による消費者動向【釣り具の製造卸】
人員不足で募集しても集まらない【プレス機械製造販売】
人材不足【電子応用装置製造、防犯カメラ機器】
人材不足、人材のスキル不足。【ガラスへの表面処理加工】
人材不足である中で人件費が高騰し、収益を圧迫している。【カット野菜】
新卒者の採用。若手社員の退職。【化学工業】
製造業の衰退【アルミ、ステンレス加工(ヨットマント製造、関係する製品の製造)】
設備投資が進みにくい【UV、CED 照明器】
前期は良い形で終わることができたが、これからは海外情勢の関係で悪化していく。実際に顧客からもその話が出ている。【自動機械のオーダーメイド設計製作】
中小企業の実態と労働者関係の法のギャップを感じる。(働き方改革)【実装基板の各種検査機及び治工具の製造開発販

売】
注文数が減っている。利益率が悪い。【プレス加工】
注文を受けても部品（LM ガイド）納期が 1 年半もかかり、対応に苦労している。【超音波洗浄装置】
賃金上昇【リサイクル】
定年後の雇用【制御盤の組立配線、ハーネス加工、ケーブルの端末加工】
同業者や外注先の高齢化【省力化機器の設計製作】
得意先に訪問しても仕事が少なそうに見える。【発砲 PE の加工販売】
都心のみ金が動いており、少しズレると動いていない【酒類製造販売】
取引先がコストだけで仕事の依頼をする。【工業用モデル製作】
日系大手企業の販売力低下【粘着製品の加工販売】
ネット印刷ベースの価格での問い合わせが多く、困っています。【印刷、デザイン、情報処理】
納期の短い仕事が多く、キャパシティに限界があるので、受注することができず、売上が伸びない。【建設機械、産業生産設備の部品製造】
配送費の値上り、包装資材の値上り【小分け包装（佃煮、煮豆）】
働き方改革、消費税増税【板金加工物の製造販売】
働き方改革による経営に対する圧迫【各種産業用機械部品製造】
半導体関連において売上が伸びていない。【精密部品の設計、製造】
半導体需要の落ち込みが目立ちます。【プラスチックチューブの製造販売】
販売不振【破砕機、選別機、移動式ベルトコンベア】
人手不足【配電盤、操作盤、その他弱電機器等の鉄、ステンレス、アルミ等を切断、穴あけ、折り曲げ、溶接、仕上げなどの加工業】
人手不足【精密計測機の設計、製造、販売、梱包業】
人手不足による現場の動き（スピード）低下【】
不況（アメリカ）【金属合紙の再生】
不況感の感触。建設現場減少のため競合との競争激化。仕入、賃金上昇も価格が上がらない。【手すり、門扉等、アルミ建築金物の製作】
物流費、人件費の高止まり【ジャズポップコーン及びポップコーン原料豆】
プラスチック製品離れ【プラスチック加工業】
米中のこと、中小企業の5～10 年後、オリジナル商品は皆が持っていない【金属、樹脂切削加工、各種装置設計製作】
米中貿易戦争の影響を顧客を通じて感じる【角型紙管等の製造、吸着剤の加工】
米中貿易船摩擦が中小零細企業まで及んできているよう。【印刷業】
米中貿易摩擦の影響が大きい【化学工業】
米中貿易摩擦の影響もあり、景気は 2018 年秋より悪化しだした。回復の見込みはまだつかない。【伸銅品製造販売】
米中貿易問題の影響。大企業からの生産調整から中止による受注減。【光学ガラス加工】
米中貿易問題の影響がある。【高速モータ製造】
米中摩擦、貿易悪化、人手不足がやわらぐ【金属加工】
米日貿易摩擦【切削工具製造および再研磨】
保護貿易の影響による世界経済の低迷に不安（受注量と受注価額）【自動車建設機械等の螺子類の製造加工】
メーカーの一人勝ち。下請けはしめあげ苦しい【金属製品製造業】
優秀な人材確保が更に厳しくなってきている。【携帯電話基地アンテナ、鉄道車両用アンテナ、Wi-Fi 装置等開発製造、ビックデータ解析、電気工事】
輸出関連の製造業（特に弱電関係）の景気が悪い。米中の貿易摩擦の影響が色濃く反映されていると思う。【段ボール製品】
用紙等の 20%値上げが利益を直撃。人手不足。【オフセット印刷業】
理化学関係の国の予算が激減していると思われます。大学関係からの注文もほとんどありません。【空気圧機器製造卸売業】
老後 2,000 蔓延問題でお金を使わなくなっている。【畳製造】
若い人材がすぐ辞める【食品製造機械を作る】
若手の採用が困難。原材料費の高騰【業務用包装装置、自動制御装置】

建設業
７月に代表を息子に移譲しました。ユーザーからの受注拡大を目指しているよう。【アルミサッシ等販売、施工】
オリンピック、パラリンピック後の景気悪化が心配。【外構工事】
海外情勢の変化（米中関係、中東情勢）を受けて、民間企業の投資に変化がみられる。【建設請負業、不動産業】
既存客の高齢化による受注の減少【リフォーム】
既存住宅の建て替えの減少から空き家が年々増えているのが身近に感じられる。受注もコンスタントではなく、浮き沈みの波が大きい。
求人を出しても応募がない。【団地修繕工事、各種リフォーム工事】
金融エンドユーザーの人員削減、店舗縮小により、設備の設置があるものの一時的なもの。メンテナンスが減る方向に進んでいる。【セキュリティ収納システムの設置、電気配線、設定、テスト調整作業】
経営者と社員の高齢化【リフォーム】
景気は良いと感じています。小さな工務店なので、大きい仕事が入っており、それで感じているのだと思います。【住宅新築工事、リフォーム工事】
景気良好。特に問題はなし。【電気工事】
建設業に魅力がなく、若手技術者の不足が今後も続く。もっと受注額が上がり、給与が増えなければますます厳しくなる。【塗装工事業】
公共工事関連に無項目の増が認められないことが多い。結果、収益に減が生じる。【建築設備】
公共工事の悪化（減少、設計金額の低下）【造園、土木工事設計施工管理】
好景気感【防炎加工業】
工事減少、ダンピングによる収益率の低下【総合建設工事における設計・施工、管理請負業務】
工事人（職人不足）が少ない。受注があっても処理できなくなる。【住宅の建設（戸建て）】
ゴールデンウィーク後の停滞が売り上げに影響あり。【屋外広告業（看板の製作・設置）】
この先安定するのか不安【土木工事、ブロック工事】
今後の受注が動き的に不安
相模原市内に仕事が少ないので市街にて受注している。【総合建設業】
相模原市の交通安全施設の予算がない。市内の道路標示、区画線は消えて薄くなり、カーブミラーは根が腐るまで放置。【交通安全施設業（区画線、カーブミラー、標識等）】
産廃処理費の値上げ【解体工、外構工事】
仕事量の地域差（都心、横浜は多く、相模原、県央は少ない）【電気設備工事】
従業員の高齢化
従業員は足りているが、職人不足が続いているため、確保に苦労。働き方改革の影響で製造業での納期が遅くなっている。【建築全般、金属工事、設計・施工・販売】
従業員不足【造園土木業】
従業員不足です。【一般建設業】
従業員を増やしたいが、土・日・祭日の仕事が多いため、なかなか集まらない。【工場、テナントのパーテーション】
受注旺盛【解体工事、外構工事、土木工事】
受注減【建物解体業】
受注時期が集中し、人手不足になる。【電気工事】
受注単価低下【防水工事業】
受注の減少【電気工事】
受注は増加にありますが、好景気感はありません。（単価の据え置きが要因かも）。今後の問題は人員不足に更に働き方改革の対応だと思います。【給排水、衛生設備工事、多種施設保全工事】
受発注は増加しているが、人手不足で全受注が困難である。あまり好景気感はない。【外構工事、宅地造成工事】
消費税が８%に上がったときは駆け込み需要で少し忙しかったですが、あと３か月で10%に上げられるのに、まったく先が読めず、お財布のひもが緩みません。【リフォーム】
消費者からの要望が多い。【リフォーム】
消費税 10%が不安【水道工事、リフォーム】

消費税が上がる 10 月以降の景気状況が心配である。集客数を増やすには努力の仕方によるが、材料単価の上昇は我々にはどうにもならない。【測量、各種杭、改良工事(地盤)、沈下修復工事】
消費税増加による駆け込み工事が多く、工程が思うように進まない。【電気工事】
消費税増税後及びオリンピック後の景気後退。【屋根、塗装、防水工事】
消費税増税されるにあたり、民間受注が減少すると思います。【建築工事業】
消費税の増税による駆け込み需要はあるが、そのあとが心配。【住宅サッシ、ビルサッシ、ガラス工事、エクステリア工事】
職人が高齢で退職する人が多くなった。【型枠工事】
処分費等経費の上昇が著しい。【建物解体】
人材確保が難しい。【測量、大工工事業】
人材不足【冷凍・冷蔵設備工事】
人材不足【塗装業】
人材不足【電気工事業】
人材不足(常時)【機械器具設置工事業】
人材不足。仕入高。【土木工事】
全体的に工事数減で売り上げ減少しているが、社員の増員で受注額を増やしたいが、求人募集で応募がなくて厳しい。外国人採用も検討中。【建設設備業】
全体的に不景気【リフォーム】
単価が上がらないのに福利厚生費の負担増加【足場組立、解体】
中堅社員不足。若年社員の早期退職。外注作業員不足。【設備工事業】
通信業界は競争が激しく盛況ではあるが、通信コストを下げるために工事費が低く、収益率が低下。【携帯電話基地局工事、設計・施工。Wi-Fi、AP 設置及び保守】
土木工事は若い日本人がいないので、外国人を雇うようになると思う。【土木工事、外構工事】
年間を通じて仕事量が一定していない【電気工事】
働き方改革により、現在の人員では負担が大きくなりそう。新規採用するほどの仕事が確保できるか不透明なため、判断が難しい。採算が合わず、従業員の給与を維持できるか心配。【揚重業】
発注方より仕事の減少(NTT 関係)【通信工事業】
人が足りない【電気工事業】
人手不足
人手不足。雇用見込みなし。【防災設備保守点検工事】
人手不足。資金繰りの悪化。従業員高齢化。【電気通信工事業】
人手不足のため、大きな仕事の受注ができていない。取引先の工事代金の値下げもあるので、厳しい状態である。【電気通信工事】
不況感【新築、リフォーム等】
不景気【住宅工事】
物件は都内が多く、市内の現場は少ない。
方向性を変えることが必要である。【エクステリア】
毎日不況が進んでいる気がする【造園業】
前工程の遅れ(特に躯体業者)【内装工事】
末端企業は何も変わらない。単価、諸経費等【内装工事】
慢性的な従業員不足
元請は過去最高の利益を出しているのにもかかわらず、単価が上がらず、仕事量はこなしきれないくらいあるため、下請けからの脱却、元請工事比率をアップする。【家屋解体業、廃棄物処理業】

小売業・卸売業
2,000 万年金の話が出てから来店客の減少が顕著である。【繊維製品の販売】
5 月 10 連休後の売り上げ減が著しいようです。【菓子製造小売】
アベノミクスによる最低時急上昇、有給の増、人件費の上昇により利益の圧迫は深刻。【コンビニエンスストア】
一部の事業を改善するともう一つが悪くなりの状況が続き、全体的な業績向上までの道のりがまだ遠い。

【食品、タオル、カタログギフト、お茶等】
売上低下、利益率の低下【工業機械工具の販売】
売上は順調に推移しているが、消費税増税の影響などでればいつでも悪化もあり得る状況。【市内名産品、市内産野菜などの物販】
運賃の値上げを販売価格に反映できない。【介護用食品の開発及び販売】
大型店の安売り【酒類販売】
オリンピック開催に向けて盛り上がりを期待したいところだが、このタイミングで年金や社会保障問題等、個人消費に影響がでないか不安。キャッシュレス化も中小小売店には手数料負担が大きい。【スポーツ用品、体育施設】
各自年金の減少により不景気が続くと思う。
過去ロングセラーとなっていた商材が売れにくくなり、単価を限界まで下げた。求人に対する応募者が劇的に減った。【古物商】
ガソリン、配送料コスト上昇【OA 機器・オフィス家具】
景気格差ができているような感じです。【サプリメント、化粧品、WEB 販売】
景気感は悪い【ガソリンスタンド】
景気感悪く、ネット販売に押されている。【玩具小売】
景気の減速感【ボルト、ナット、板金類】
景気の先行き感（消費税増税）へのマイナス要因が今後の営業にひびく。【食料品、雑貨、衣料品】
小売店が不況のため、仕入れを控え、その影響が大きく出ている。一般市場は最悪の状態であると考えている。【アクセサリー（宝石含む）材料輸入、業者へ販売】
高齢化が進み客数減少【医薬品、化粧品販売】
高齢化に伴う消費及び低価格に向かっている。2,000 万不足問題。
高齢化により客数の減少【乾物食品、結納品販売、カフェ他】
高齢者が飲食、旅行、健康志向にお金を使い、耐久消費財の買い控え、低価格志向が買い物の流れと感じる。自分の代で廃業しているところが増えている。【メガネ、コンタクト、補聴器】
ゴールデンウィーク以降、過去にない個人消費の低迷を感じます。消費税が上がった際、より一層になるのではと思う音厳しい。【たい焼き、たこ焼き、焼きそば、酒等】
顧客の高齢化、若い世代も含めて収入の低下により買上単価、来店回数の減少。【食品全般、雑貨品販売】
顧客の高齢化により購買力がなくなってきている。【婦人服小売業】
個人消費が半分以下となっている。仕入材料は値上がりし、設備も老朽化等不安です。【菓子製造販売業】
個人消費がやや低迷している感あり。売り上げも微減。【食料品、住まいの品、衣料品】
個人消費低迷、顧客減少、仕入れ先減少等、先行きに希望が持てない。【寝具類】
個人消費の低迷【食品、消耗雑貨】
個人消費の低迷。【自動車販売】
個人消費の低迷。景気がとても悪い。【衣料品販売】
個人の財布が堅い。売り上げに結びつかない。続かない。
雇用の確保【高圧ガス、溶接機材、産業機器】
今期以上に消費税増税後の消費者状況【水産総菜、珍味製造販売】
今後の消費税増税に伴う軽減税率の対応【地方卸売市場（青果）】
今後非常に不安【自動車販売】
最近の消費者【乾物】
最低賃金の上昇はするも個人消費に反映しているとは思えない。中小企業にとって賃金上昇と売り上げ不振等の板挟みで経営は悪化するばかり。不況感しか感じない。【新聞、雑誌販売（戸別配達）】
最低賃金は上がるが利幅は少なくなってきているので、経済的に苦しい。パートさんの扶養で働ける時間が減ってしまっています。【LP ガス、住設機器】
相模原は一歩も二歩も遅れている。集客できる目玉がない。【視力の測定、眼鏡、コンタクト注文販売】
仕入れ価格の上昇に対し販売価格の下落、受注をしても納入変更など予定が立てにくい【客土、骨材（山砂、砕石）】
社員を募集しても集まりにくい状況にある。【食肉卸売】
修繕費の高騰、産業廃棄物埋め立て場所の不足。人件費の高騰。【ガラス原材料卸売】
修理やリフォームが増加傾向で新品製品の販売が減少傾向。【寝具販売】

受注商品に特殊なものが入ってくるが、その商品の単品購入ができず、箱買いになってしまう。分けることができないのは飲食店などの景気も悪いのだと思う。【給食材料、青果物】
受発注の状況【LP ガス販売】
需要は増えるが、人、サービス単位が変わらないので、対応ができない。【医療機器販売、福祉用具販売】
少子化による消費の低迷。最低賃金の数年間の急激な上げ幅による経費負担増。【事務機器、事務用品、文具、教材、印章等】
商売相手のたばこ小売店からは不況感を感じている業者が多い。【輸入たばこの卸売業】
消費者が減少【乳製品の宅配及び卸売】
消費税増税【婦人服、雑貨の卸売】
消費税増税以降が心配。【ガソリンスタンド】
消費税増税後の景気が心配。【非鉄金属部品等販売】
消費税増税への懸念。消費の落ち込み。【生花の委託販売】
消費二極化が止まらない。高齢化による人材難と家計消費支出低下。保育所不足。【食品、衣料品、家庭用品、生活サービス全般】
人件費が高い。菓子業界がそもそも過剰期。高齢化による大きなデコレーションケーキがでにくい。【洋菓子製造販売】
人材の品質低下【スポーツ用品】
新入社員が少なくなった。
精密機械工場の活気が減少した感あり。【作業着、作業用品】
全体的な売り上げの不振に伴い、収益率の低下もみられる。販売費（配送費など）も増加しており、今後はさらに厳しい局面が予想される。【健康食品の販売、卸】
全般的に車離れ。少燃費の車が増え、10 月以降の増税によりさらに好況感は少なくなるのでは。【ガソリン等石油製品全般】
大工、工務店不足【木材、設備機器、新建材】
単価の高い高額絵画の動きが良い。【美術品、絵画】
中国の設備投資の減少により鋳物の受注減少。特に工作機関係【鋳造副資材設備、鍛造用潤滑剤、熱処理炉、ショートブラストメンテナンス】
中国の動向【繊維機械部品輸出、貿易】
中心だったユーザーの年齢が年々上がり、その割に低年齢層の参入が少ないことによる弊害が大きく出てきたと思われる。【釣り具販売】
通信販売による価格の問題が大である。【スポーツ用品】
トランプ大統領のアメリカファーストが全世界に影響を及ぼし、各国で自国一番精神が徐々に浸透していき、輸出に悪影響を及ぼしている。【光学レンズ輸出】
取引先の陸送会社が抱えている問題（人手不足や燃料代の高騰等）の影響を少なからず受けている【中古自動車、中古自動車部品の買取・販売】
ネット通販、カタログ、ファックス DM での低価格【文具、OA】
ネット通販の害悪【観賞魚用品】
年金 2,000 万不足の問題から消費が少し低調になったのではないか。【生鮮食品卸売】
年金 2,000 万問題から不況。【精肉店】
年金問題、高齢者貯蓄問題【食肉】
納期の長期化が受注につながらない。商品単価の上昇が著しい。【自動車、自動車部品販売、自動車修理】
パートさんの人件費の高騰【生鮮食品と惣菜】
配送費の上昇で仕入れ価格が上昇。【インテリア販売】
働き方改革及び消費税率 10%に引き上げ等先行き不明【エアーコンプレッサー販売、修理】
働き方改革が非常に重い。【自動車部品】
販売先が高齢になった【家電販売及び工事】
販売単価の下落【金物】
販売取引先の倒産、廃業が多い。【食品用包装資材】
販売量の減少【旅行用品】
必要なものしか買わなくなった。【コンビニエンスストア】
人手不足、新卒、途中入社ともに集まらず。【トラック、バス販売、修理、点検】

一人当たりの購入単価が下がった。近くにコンビニやモールができ、顧客が減少した。【パン製造販売】
不景気【中古車販売、修理】
物価の上昇。送料の上昇。ネットの影響による売り上げ減少。低価格化。【文具、事務用品、オフィス家具】
物流費の増加【安全衛生保護具、安全靴、作業服、保護具】
米国、中国の貿易戦争の解決【金属リサイクル業】
弊社においても取引先企業においても人手不足が喫緊の課題となっている。【電設資材卸売】
米中貿易摩擦、韓国輸出規制などによる日本経済への影響が不安材料の一つ。【梱包業】
ホームセンター進出による個人消費の低迷【建築材料一式】
見通しが不透明【産業機械輸入販売】
元請による材料支給の増加。【建材小売業】
優秀な人材不足【フォークリフト販売等】
良いものを探している方にご利用いただくまで宣伝が行き届いていないかもしれない。価格のみに判断がある消費者には受け入れていない。【農産物販売】
良きにつけ悪しきにつけ、中国経済の影響が大きい。【タイヤ、ホイール販売修理】
リチウムイオン電池の材料不足による生産の遅延【自動車ディーラー】
老後生活不安の消費減少【スーパーマーケット】

飲食業・サービス業
5・6 月の売り上げが例年の 50～60%。7 月以降の受注は順調。【ポンプ、送風機のメンテナンス】
5 月 10 連休後の売り上げの落ち込みがひどすぎた。原材料の高騰。毎年上がっていく最低賃金が効いている。【焼肉】
iPhone の第 3 者修理(メーカー以外)について一般ユーザーに浸透してきている。【iPhone 修理店】
IT 分野は全体的に活況ながら、一部に減速の兆しも見える。新卒採用(2020 年)に関しては大変好調だが、理由を解析しきれていない。【ソフトウェア開発】
アシスタントを使うことが難しくなってきた(先方の人件費削減のため)【料理講師】
アメリカの動向【アパート賃貸管理】
案件が決まらなくなってきている。【受託ソフトウェア開発】
伊勢丹相模原店閉店後の顧客動向及び消費税増税後の影響【ショッピングセンター管理業務】
インバウンド来日、イベント関連が増加。【ホテル】
運送業界の荷物の動きが悪すぎる。(輸送物が全国的に少ない)【一般貨物自動車運送事業、特殊車両誘導事業】
大手メーカーからの依頼が徐々に減少している。単価も抑え気味なので、売上が伸びていない。人材は確保できている。【組込ハードウェア、ソフトウェア開発】
お客様が高齢化したので、客数が減少。【美容業】
お客様の高齢【美容業】
お客様の来店頻度が少ない【ワイン、日本酒、パスタ】
オリンピック後の景気と人材の不安【清掃サービス】
オリンピックの動向に消費者が影響を受けている(習い事でいえば、文系より体育会系指向)【珠算指導全般】
外国からのインバウンドは好調な一方、国内宿泊は少ない。【ホテル】
介護職不足。募集しても来ない。70 代とかはたまにくるが、正直採用は難しい。国は処遇改善をというが、法人への収入は減っており、職員の給与を上げるのは難しい。また、扶養範囲でのパート希望者の稼働日数が減り、新規入職なしではどうにもならない。【介護保険利用者(高齢者通所介護)】
介護保険で給付率が下がり、賃金を上げなくてはならず、どんどん苦しくなる。【介護(デイサービス)】
買い控えのお客様が多い。【不動産分譲、建設】
稼働の低迷、雇用の不足【カラオケボックス】
客単価の減少【ケータリング(オードブル、寿司、会席料理)】
求人広告を出しても人がこない。来ても 70 歳くらいの人ばかり。【介護、福祉業、居宅介護支援事業、地域密着型通所介護事業】
求人募集をかけても面接希望者がいない。燃料(軽油)の高騰。【自動車部品】

業界内はそれほど悪くありません。【ボウリング場】
近所に同業者が多く、客の取り合いになっている。【保険治療】
金融機関の引き締めにより不動産売買取引の低迷【建築設計、不動産仲介】
経営上、運営上、インターネットを介して行われることがほとんどで、どんどん出てくる新サービス、新システムについていくのが大変だが、うまく活用していけば、いずれの業界にも大きなチャンスの時代だと思います。【学習、受験サポート、家庭教育、子育てアドバイス】
景気が悪化は自己の力不足。景気が悪くても売り上げを伸ばしているところがある。【美容業】
景気が悪く消費者の購買意欲が低い【不動産売買及び仲介】
景気感、消費税増税の影響【餃子専門店】
景気感にはあまり大きな変化はないが、消費者ニーズは多様化の方向にあると思う。雇用状況としては、求人難と仕事に対する意欲が低いことに困っている。【不動産売買、仲介、賃貸管理及び仲介】
景気の先行き不透明感【保証業務】
景気の低迷、人手不足、客単価の低下
景気は良くない。消費税増税とオリンピック後の景気落ち込みが必ずあると思い、不安です。【賃貸管理業】
現状では維持できているため、あまり感じていないが、不況により空きが出ることが不安である。【不動産管理（自社物件）】
好況感はない。不安。【電機製品（機械設備）、機械部品他】
公共投資の増加、法人の設備投資計画も増加と景況は緩やかに回復している。一方で製造業では在庫の回転期間が長期化しており、注視が必要と考えている。【銀行業務】
好景気と言われても実感なし。消費税増税で消費が止まる。【賃貸業】
広告宣伝費の上昇、個人消費単価が下がっている。【全身オイルマッサージ】
高齢化で外食（特にラーメン）は斜陽化している。消費税増税で税込みで販売している当店は打撃となる。また、人件費（最低賃金）を上げるだけでは生活向上とはならないと思う。どんな仕事でも 1,000 円を払いと働きたくても働けない人がでると思う。【ラーメン店】
顧客が中高年から若年層に代わってきた。単価が上がってきた。【居酒屋】
顧客先が経営難となり、契約が打ち切りとなる可能性あり。【社会保険業務、社内労務管理のコンサルタント】
個人企業にとっては面倒な軽減税率で消費者にとっても困ることでますます不況になりかねないと思います。【軽食、洋食、飲み物、ケーキ類】
個人消費単価の減少【医業】
個人消費の低下【理容業】
個人消費は、かなり低迷していると思われるが、会社での利用が増えているように思う。格差が広がっているように感じる。消費税が上がるとますます厳しい状況になると予測できる。【日本料理、そば、ワイン、日本酒】
個人投資家からの発注が多く、スルガ銀行、レオパレス、ダイワ等マンションに問題が多発し、銀行融資がおりづらくなった。【建築設計】
今年は給料日前と後でのお客様の購入意欲の違いがあると感じる。【コーヒーの移動販売】
顧問先の業績が少しずつ悪化している。【税理士業】
雇用（若年層）を進めての技術を身につけるまで、ここ 10 年くらいは特に期間がかかる。最低賃金を上げるのは良いが、販売価格が追い付かなくなる。【建築物清掃】
雇用維持するのが難しい【税理士事務所】
雇用先の人手不足【労働保険、社会保険関係】
雇用状況【雑貨、食品】
雇用状況【歯科技工】
雇用状況において人材確保が極めて困難。【福祉施設の運営（認知症グループホームの運営、通所介護（デイサービス）の運営）】
雇用状況は過去最悪【運送】
雇用を増加したいが、集客ができていない。【ネイルサービス】
今期は 2,000 万以下および 5,000 万以上の戸建てが売れている。格差社会を感じます。【土地、住宅販売、賃貸管理業】
今後の人手不足
昨年くらいから景気は上向きと考えられる。【コンピュータソフトウェア開発、運用保守】

昨年末より景気感は悪化傾向だが、直近では消費税対策と考えられる受注増もみられる。【経営コンサルティング及び創業支援業務】
仕入単価を含め経費増【酒(ビール、日本酒、ワイン、焼酎等)、ソフトドリンク、つまみ(刺身、揚げ物、焼き物他)、会席(ごはん、おにぎり等)】
仕入れの部材は少しずつ値上りしているものの、発注単価は以前のままで厳しい状況です。他社もあるのでなかなか値上げできず。【ハウス、ビルクリーニング】
仕事の依頼があっても人手不足で断るときもある。【ビルメンテナンス業】
自身も老齢化しているが、顧問先も老齢化している。会社の解散の話がチラホラ出ている。【税理士】
自然災害の被害の多発【一般送配電事業、不動産賃貸事業及び離島における配電事業】
時代の流れと思っている。【理容業(ヘアースタイリスト)】
自動化の必要性と売り上げ増加の方策の強化(個人消費)について【居酒屋】
地元業者の成長を本来とする市政にありも、県外本社で市内には電話、ファックスのみを置くごとくの企業の入札参加が、採算を割るほど受注単価を極端に下げているのが不況の元凶である。地元企業としての妥当性の識別を強く市に求めたい。【ビル清掃、設備管理業】
地元の客の来店減少【金券、切手、リサイクル】
従業員数が不足しているため、外部発注が多くなったり、コストが大きくなっている。【構造物並びに付帯設備の建築設計及び工事監理業務】
従業員不足【自動車整備】
種子高齢化により年々福祉人材の確保が難しい現状にある。【障害福祉サービス業】
受注減少【土地測量業務請負】
需要はあるものの、高齢者の個人財源の不安、低迷など必要であるサービスだが、経済理由からサービスを受けられない可能性ある。【介護事業】
商店街全体の不況感【食事一般】
消費意欲は全く感じない。節約への流れと感じる。【生保、損保代理業】
消費しない。みんな節約で財布のひもが固い。【ライティング業、集客代行】
消費者減少による商店街の衰退【カフェと焼き菓子】
消費者の高齢化に伴い、消費の落ち込みが厳しい。
消費者の支出減【経理】
消費税増税、老後資金 2,000 万、年金目減り、低金利および投資等の値下がり、進む二極化資金格差、若者の生活苦、良い材料なし。【魚料理、酒】
消費税増税後、全体の景気が良くなるとは感じられない。【賃貸管理業】
消費税増税後の社会状況が今後どう変わるか。【メンテナンス、機械修理】
消費税増税で消費意欲が落ちている。
消費税増税について利用者の動向が一番心配される。景気感が下がる。【惣菜業(鶏肉、焼き鳥、から揚げ専門)】
消費税増税により支払いが必要【測量、土地家屋の調査、開発申請】
消費税増税による消費者の外食を控えるムードが売り上げに影響していくことの不安【お好み焼き店】
消費税増税の悪影響。消費税増税による令和不況。長期停滞の再来。【税務申告等】
消費税増税の影響、オリンピック後の景気、米中貿易摩擦への不安。【製造コーディネート(企画→デザイン→設計→試作・評価→納品)、機械・機構設計、電気設計、プロダクトデザイン、3D プリンター部品製作】
消費税増税の影響、米中貿易戦争による経済の減少。【一般貸切旅客】
消費税や軽減税率についての不安【居酒屋、ラーメン屋】
消費税率の引き上げが今後の資金繰り、納税に大きな影響を与える。この時期に増税すべきでない。先行、零細中小企業にかなりの打撃。【建築設計監理業】
消費の冷え込み、全体的に客単価下落しています。【居酒屋】
職員の雇用で紹介会社を頼らざるを得ない。看護師は流動性が高いので何か同業種で一工夫できればよいと思っている。【クリニックの運営(外来診療と訪問診療)】
新規雇用難【倉庫業】
新規店が増加し、器具機械の老朽化【美容業】
新規入社が少なく人手不足【一般常用旅客自動車運送事業】
人件費の上昇がすごすぎる【弁当、惣菜、おむすび、寿司】

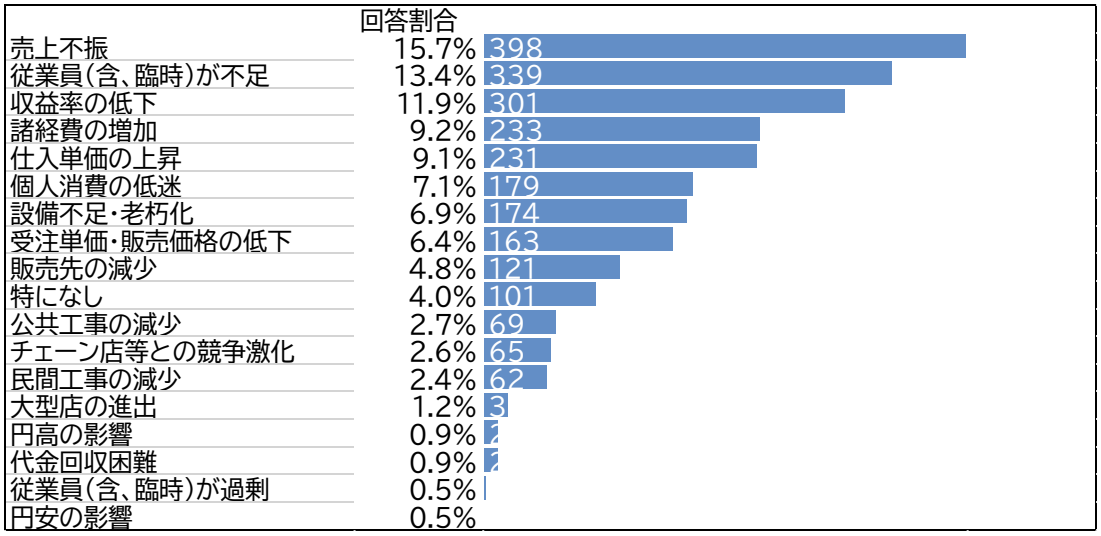
人件費の上昇【人材派遣業】
人材確保、人手不足、人が集まらない。【運輸業、食品】
人材不足【ソフトウェア開発】
人材不足【システム開発】
人材不足【介護事業（訪問介護）】
人材不足のため営業日数や時間が思ったようにいかない。その分売り上げが上がらない。【ラーメン店】
新車の受注減により部品売り上げが伸びていない状況にある。【自動車部品全般】
数年前からの家族葬、直葬の流れで売り上げが減っております。【葬儀関連】
少しずつ取引先が変化している。【油圧機器の修理、再生】
すべてに明るさが見えず、不安な状況にある。【中小法人への ICT サポートサービス】
全ての方がマインドの低下気味【不動産買取転売事業】
政府の発表では景気は上昇しているようにいわれているが、景気動向は不安定で 1 か月の内でも良い時と悪い時の差が大きい。【中華料理専門店】
世界情勢不安が広がっており、投資動向が鈍っている。リスクを取りずらい環境。【有価証券売買】
世代交代と地域の空洞化【コンピュータ技術講習、社会貢献事業】
前期からの公共事業の受注ができ好調であるが、契約期間が 1 年と短期のため、次の見通しができない。【電気保安管理業務】
先行の生活が不安で、低料金店へ流れ、来客数の減少が著しい。【頭髪のカット、顔そり等】
全国的にも地域的にも景気が悪い感じがある。【イタリア料理店】
全体的に荷の動きが悪化。燃料化学上昇【一般貨物運送事業】
全体的に世の中が不景気【パーティーコンパニオン派遣】
前年度と比べて全体的に悪い【浄水器のレンタル業】
葬祭業においては、葬儀の小型化（家族葬の増加）が一段と進み、一件単価が下落している。【葬祭業】
増税後の景気反動【ショッピングセンター運営業務】
そろそろ人手が欲しいが良い人材がいない。【写真撮影】
第 14 回お店大賞をいただき、30 年 7 月までは売り上げが前年を超えましたが、8 月以降売り上げが低迷しています。【フランス料理調理（肉、魚、野菜、酒）】
大中小企業の業績が上がっていない。むしろ低下の傾向あり。【経営労務コンサルタント】
代表者の引継ぎ【ビル管理業】
中間業者がマージンを取って運賃のアップがない。親会社からの運賃が上がっている。【空き容器、飲料水、OA 機械他】
中小企業、特に製造業、サービス業に対しての融資状況が少ない。（無担保の制度融資については不明であるが。）【司法書士業（不動産登記、商業法人登記、後見業務、簡易裁判所代理人業務、遺産承継業務、以上の相談業務）】
賃貸事業における入居者の低迷。物件の供給（新築物件）の多さが見受けられる。【不動産の売買仲介、土地建物の賃貸及び管理等】
賃貸住宅の引っ越しされる件数が減っている。購入される方はとても慎重に検討しながら契約していただける。【土地、建物、賃貸管理、リフォーム】
通所介護では販売単位が下落し、売り上げ減少。人手不足と働き方改革で経営が厳しくなっている。【介護、福祉、医療】
通販等値引き、年金生活移行で出費減【保険代理業】
強い分野のアピールをすることでブランド化につながり、大型案件を受注できた。【ソフトウェア、Wes システム開発業】
電気使用量の減少。【協同組合（共同受電事業、共同駐車場事業）】
東京オリンピックまでは浮かれ気分なのか景気は良い方向に感じるが、仕入れ単価、原材料の価格上昇のため収益率は悪いと感じる。【焼肉、韓国料理】
投資家の 1,000 円カットの進出。お客様のカット日数が長い。【理容業】
当店の対象者は高齢者なのですが、対象者に適切な情報がいきわたっていない状況を強く感じます。【訪問美容】
土日祭日の売り上げ悪化【日本料理】
取引先の減少不安（廃業など）、雇用の不安（継続雇用の可否）、顧客の需要不安（消費税増税の際）【清掃業（墓石クリーニング、コーティング、メンテナンス）、石材特殊清掃（重要文化財等）】

取引先の特に製造業の景気は良くない。【会計業務】
取引の多い業界全体が景気があまりよくない。【書類作成】
荷主の生産が順調で売り上げが伸びております。人材も十分に確保できています。ただ、いつまで続くかは不安があります。倉庫賃料がすごく上昇しており、なかなか見つかりません。【一般貨物自動車運送業、倉庫業】
日本経済の見通しの不安。人材不足。【機械設計】
ネット通販等の安価競争、金融機関等の圧力販売【生保、損保代理業】
ネット普及による個人旅行の激減【旅行業(国内団体、個人旅行、訪日旅行、その他各種取次(チケット、パッケージ旅行))】
年々おかしくなっている天候にも大きく左右されている。【クリーニング業】
燃料費の高騰。乗務員不足。【貸切バス】
パート、アルバイトが全く足りない。求人広告を出しても応募がない。【警備業】
働き方改革が施工され、社員の仕事量を減らさざるを得なくなったため、社員数を減らしてアルバイトの雇用増加を望んでおります。雇用状況が過剰というのは社員のみでアルバイトは不足している状態にあります。【テニススクール運営】
働き方改革に伴う従業員待遇の改善の必要性【接骨院、鍼灸マッサージ】
働き方改革によって時短、最低賃金、有給休暇の義務化、社会保険等、零細企業には厳しいことばかりで困っています。【美容業】
繁忙期と閑散期が全く読めず、波が激しい。【建築用資材等】
引き続き採用難【人材派遣業】
人手不足【一般貨物運送事業】
人手不足【一般貨物輸送】
人手不足【古紙回収業】
人手不足、最低賃金の上昇による人件費高騰と販売価格への繁栄の難しさ。【ビルメンテナンス業】
人手不足、米中関係の悪化による影響【廃棄物処理業】
人手不足と高齢化【理容業】
頻繁に法改正が行われる中、業務が複雑、多様化し、人手が足りなくなってきているが、雇用状況はなかなか改善されない。【税理士業】
不動産業の中で一般向け業者(建売、仲介業)は苦戦している。また、消費税増税前の駆け込みも感じない。不景気。【アパマン売買】
不動産購入希望者の激減【宅地開発分譲、新築分譲住宅販売及び仲介、アパート・マンション賃貸、駐車場等管理】
不動産の動きが悪いように思う。
分譲地の販売期間の長期化【土地分譲販売、土地建物売買・仲介、賃貸管理・仲介】
米中の争いがじわりマイナスに影響。【ISO9001 認定審査事業】
米中貿易摩擦において自動車部品の請負業が減少。【人材派遣、業務請負、エステサロン、まつげエクステ、ネイル】
ヘルパー採用が極めて悪い【訪問介護】
ヘルパー不足【介護(訪問介護)】
法人から個人事業への転換が目立つ【税理士業】
保健所の指導による販路縮小(イベント出店)【生ジュース製作販売】
本年 4 月から運送依頼件数が急激に減りました。例年 4 月、5 月は件数が低迷しますが、本年は 6 月も伸びませんでした。【一般貨物運送事業(建築部材、土木資材、重機、製品)】
慢性的な人材不足と実感しているものの支店が固定化してしまっている。【一般雑貨】
面接に来る人のやる気のなさ。【物流】
輸入ビジネスの動きと需要【ネットショップ制作、運営(輸入時計、食器)、ホームページ制作、管理】
予想されていた好景気(オリンピック)が、あまり実感されなかった。【人材育成コンサルタント】
来店客数の減少。客単価減。【美容技術一般】
利用者がやや減少している。【鍼灸マッサージ業】
労働者不足。労働者の仕事への意欲、興味の低下。【保育事業】

経営上の問題点

単純集計

経営上の問題点（3つまで回答可、n=1,149）



製造業

今回調査を見ると、「売上不振」の割合が高い。1年前と比較すると、相対的に「売上不振」が増加する一方、「受注単価・販売価格の低下」と「販売先の減少」が減少。売上不振の原因が競争激化・単価下落ではなく、取引先の授業減退によるものであることが伺える。

※今回調査では、サンプル数が昨年度の各期の8～10倍程度であったこともあり、本質問の回答数が1社あたり1つまたは2つのものが増えた結果、全業種、全選択肢にわたって、回答割合が低下している。そのため、その影響を除いた相対的な比較についてコメントしている。

	H30年4～6月期 n=33	H30年7～9月期 n=32	H30年10～12月期 n=25	H31年1～3月期 n=36	今回調査 n=278
売上不振	36.4%	21.9%	24.0%	33.3%	19.0%
受注単価・販売価格の低下	21.2%	21.9%	20.0%	27.8%	8.3%
収益率の低下	21.2%	31.3%	40.0%	19.4%	11.5%
個人消費の低迷	6.1%	3.1%	0.0%	2.8%	1.5%
販売先の減少	15.2%	6.3%	0.0%	2.8%	5.2%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.8%
公共工事の減少	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
民間工事の減少	0.0%	0.0%	8.0%	2.8%	0.5%
仕入単価の上昇	39.4%	34.4%	28.0%	47.2%	10.5%
円安の影響	3.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.7%
円高の影響	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
代金回収困難	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
諸経費の増加	15.2%	31.3%	32.0%	13.9%	9.2%
従業員（含、臨時）が過剰	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	1.2%
従業員（含、臨時）が不足	36.4%	28.1%	40.0%	25.0%	14.0%
設備不足・老朽化	21.2%	40.6%	28.0%	0.0%	11.5%
特になし	9.1%	3.1%	4.0%	11.1%	3.7%

建設業

今回調査を見ると、「従業員が不足」と「収益率の低下」の割合が高い。1 年前と比較すると、「売上不振」の割合が想定的に増加する一方、「受注単価・販売価格の低下」、「仕入単価の上昇」、「諸経費の増加」の割合が減少。収益性の低下傾向は止まったものの改善はしておらず、その一方で売上不振に見舞われており、厳しい状況であることが伺える。

	H30年4～6月期 n=25	H30年7～9月期 n=30	H30年10～12月期 n=23	H31年1～3月期 n=19	今回調査 n=204
売上不振	16.0%	26.7%	30.4%	21.1%	10.2%
受注単価・販売価格の低下	24.0%	10.0%	30.4%	15.8%	8.8%
収益率の低下	20.0%	23.3%	30.4%	21.1%	12.6%
個人消費の低迷	4.0%	10.0%	0.0%	5.3%	3.6%
販売先の減少	0.0%	10.0%	8.7%	0.0%	2.7%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	16.0%	20.0%	26.1%	31.6%	9.9%
民間工事の減少	12.0%	13.3%	21.7%	15.8%	8.4%
仕入単価の上昇	28.0%	13.3%	30.4%	21.1%	8.8%
円安の影響	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
円高の影響	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
代金回収困難	0.0%	3.3%	0.0%	5.3%	1.1%
諸経費の増加	36.0%	26.7%	13.0%	15.8%	7.9%
従業員(含、臨時)が過剰	4.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	44.0%	36.7%	47.8%	68.4%	19.0%
設備不足・老朽化	8.0%	10.0%	13.0%	15.8%	2.9%
特になし	8.0%	13.3%	8.7%	5.3%	3.4%

小売業・卸売業

今回調査を見ると、「売上不振」、「個人消費の低迷」が多い。1 年前と比較すると、相対的に「売上不振」が増加する一方、「収益率の低下」、「仕入単価の上昇」、「従業員が不足」が減少。収益性の低下は一服したが需要減退のために景況が悪化していることが伺える。

	H30年4～6月期 n=20	H30年7～9月期 n=34	H30年10～12月期 n=31	H31年1～3月期 n=34	今回調査 n=212
売上不振	25.0%	50.0%	54.8%	38.2%	18.6%
受注単価・販売価格の低下	15.0%	8.8%	12.9%	11.8%	5.4%
収益率の低下	30.0%	35.3%	29.0%	23.5%	11.9%
個人消費の低迷	20.0%	41.2%	29.0%	35.3%	13.4%
販売先の減少	15.0%	32.4%	19.4%	17.6%	7.1%
大型店の進出	10.0%	8.8%	3.2%	8.8%	3.5%
チェーン店等との競争激化	10.0%	5.9%	0.0%	11.8%	4.6%
公共工事の減少	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
民間工事の減少	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
仕入単価の上昇	35.0%	29.4%	25.8%	35.3%	9.2%
円安の影響	5.0%	0.0%	6.5%	0.0%	0.8%
円高の影響	5.0%	0.0%	6.5%	0.0%	1.2%
代金回収困難	0.0%	0.0%	3.2%	2.9%	0.8%
諸経費の増加	15.0%	11.8%	3.2%	26.5%	7.7%
従業員(含、臨時)が過剰	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.2%
従業員(含、臨時)が不足	30.0%	14.7%	25.8%	14.7%	6.5%
設備不足・老朽化	10.0%	17.6%	9.7%	2.9%	4.4%
特になし	0.0%	8.8%	6.5%	5.9%	2.3%

飲食業・サービス業

今回調査を見ると、「売上不振」「従業員が不足」の割合が高い。1年前と比較すると、相対的に「受注単価・販売価格の低下」、「諸経費の増加」が減少したが、それ以外の経営上の問題点の大きな傾向は変わらない。収益性の低下要因が収まり、サービス業の業況がやや改善していることが見て取れる。

	H30年4～6月期 n=46	H30年7～9月期 n=51	H30年10～12月期 n=41	H31年1～3月期 n=61	今回調査 n=455
売上不振	30.4%	27.5%	26.8%	41.0%	14.6%
受注単価・販売価格の低下	13.0%	9.8%	12.2%	8.2%	4.7%
収益率の低下	26.1%	19.6%	26.8%	27.9%	11.7%
個人消費の低迷	13.0%	11.8%	14.6%	23.0%	8.6%
販売先の減少	4.3%	2.0%	0.0%	11.5%	4.2%
大型店の進出	0.0%	0.0%	2.4%	1.6%	1.0%
チェーン店等との競争激化	6.5%	5.9%	2.4%	9.8%	3.7%
公共工事の減少	0.0%	0.0%	4.9%	1.6%	1.5%
民間工事の減少	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	1.4%
仕入単価の上昇	15.2%	11.8%	9.8%	23.0%	8.3%
円安の影響	2.2%	2.0%	0.0%	0.0%	0.4%
円高の影響	0.0%	0.0%	7.3%	0.0%	0.9%
代金回収困難	2.2%	2.0%	2.4%	4.9%	1.1%
諸経費の増加	30.4%	21.6%	29.3%	23.0%	10.6%
従業員(含、臨時)が過剰	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
従業員(含、臨時)が不足	32.6%	21.6%	39.0%	23.0%	14.1%
設備不足・老朽化	13.0%	11.8%	12.2%	14.8%	7.1%
特になし	13.0%	7.8%	14.6%	11.5%	5.3%